



がれきと化した自宅を前に途方に暮れる被災者 6月3日、インドネシア・ペレン村

ジャワ島中部地震で5月30日から約2週間、国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市櫛津)の緊急救援チームに同行し、被災地の一つプランバン周辺で取材した。テントに暮らし「地震が怖くて眠れない」と訴える被災者のほど

ジャワ島地震 AMDA同行記

んどは、貧しさゆえに日々の生活もままならない。それなのに「助けに来てくれてありがとう」と、迎えてくれる笑顔が痛かった。いまだ復興の足掛かりすら見えない被災地。何も始まっていない。そして、まだ終わっていない。

(斎藤章一朗)

助けに来てくれてありがとう

被災者の笑顔が痛い

がれきの山の中央に立つ。気温は三〇度を優に超え、容赦ない日差しが照りつける。がれきに突き立ったドア、タンス。壁に残った家族写真が悲しみを増す。上から押しつぶされたようにひしゃげた家々。調整員の石沢睦夫さん(六九) 広島市 二は「巨大な悪魔が暴れ回ったよう」と漏らした。

日本の現地からの報道は被害が大きかったバン

「こだ」と全壊した家を見

つ。気温は三〇度を優に超え、容赦ない日差しが照りつける。がれきに突き立ったドア、タンス。壁に残った家族写真が悲しみを増す。上から押しつぶされたようにひしゃげた家々。調整員の石沢睦夫さん(六九) 広島市 二は「巨大な悪魔が暴れ回ったよう」と漏らした。

は被害が大きかったバン トウル県に集中。同県に劣らない被害を受けたに

ただ、人々の目の前にある現実、とてつもない

き立ったドア、タンス。壁に残った家族写真が悲しみを増す。上から押しつぶされたようにひしゃげた家々。調整員の石沢睦夫さん(六九) 広島市 二は「巨大な悪魔が暴れ回ったよう」と漏らした。

もかわらず、プランバン周辺の村々はあまり注目を集めていないように感じられた。AMDAはそうした村に入り、テ

設から始められ、一般の住宅などは後回し。後片付けは被災者の手作業で、遅々として進まない。

つぶされたようにひしゃげた家々。調整員の石沢睦夫さん(六九) 広島市 二は「巨大な悪魔が暴れ回ったよう」と漏らした。

ントを張って仮設診療所で診察し、家々を回っている。がれきの山を撮っていると、「うちも撮ってくれ」と手を引かれ、「こ

仕事場も壊れ、職を失った。生活できるのか」と不安な表情を見せた。

は「巨大な悪魔が暴れ回ったよう」と漏らした。

再建もしないと。でも、

が胸に残った。

病気が人がいないか

ある男性は「家の片付け、

ヤワ島中部地震の記事も減っている。複雑な気持ちになった。「次はいつ

病気が人がいないか

ある男性は「家の片付け、

ヤワ島中部地震の記事も減っている。複雑な気持ちになった。「次はいつ

ある男性は「家の片付け、

ヤワ島中部地震の記事も減っている。複雑な気持ちになった。「次はいつ

職も家も失い復興遠く

た。生活できるのか」と不安な表情を見せた。プランバン保健センターのアーメード・ブドゥリ所長は、AMDAの活動に感謝しながら「ここからが本当のスタート。被災者が日常を取り戻せるように、NGO(非政府組織)などと協力して取り組みたい」と語った。

AMDAはインドネシア支部を中心に、巡回診療終了後の支援策の検討に入った。精神的なフォローや住宅建設などが計画されている。現地主導の復興支援になるという。支援の継続が必要だ。帰国した日本は、W杯サッカー一色だった。ジャワ島中部地震の記事も減っている。複雑な気持ちになった。「次はいつ来てくれるの」。被災地で握手した子どもたちの笑顔が胸に残った。

